



8:1 そのとき、エフライム人はギデオンに言った。「あなたは、私たちに何ということをしたのですか。ミデヤン人と戦いに行ったとき、私たちに呼びかけなかったとは。」こうして彼らはギデオンを激しく責めた。

8:2 ギデオンは彼らに言った。「今、あなたがたのしたこととに比べたら、私がいったい何をしたというのですか。アビエゼルのぶどうの収穫よりも、エフライムの取り残した実のほうが、よかったのではありませんか。

8:3 神はあなたがたの手にミデヤン人の首長オレブとゼエブを渡されました。あなたがたに比べたら、私に何ができたのでしょうか。」ギデオンがこのことを話すと、そのとき彼らの怒りは和らいだ。

8:4 それからギデオンは、彼に従う三百人の人々とヨルダン川を渡った。彼らは疲れていたが、追撃を続けた。

8:5 彼はステコの人々に言った。「どうか、私について来ている民にパンを下さい。彼らは疲れているが、私はミデヤン人の王ゼバフとツアルムナを追っているのです。」

8:6 すると、スコテのつかさたちは言った。「ゼバフとツアルムナの手首を、今、あなたは手にしているのでしょうか。私たちがあなたの軍団にパンを与えなければならないなどとは。」

8:7 そこでギデオンは言った。「そういうことなら、主が私の手にゼバフとツアルムナを渡されるとき、私は荒野のいばらやとげで、あなたがたを踏みつけてやる。」

8:8 ギデオンはそこからベヌエルに上って行き、同じように彼らに言った。すると、ベヌ

エルの人々もスコテの人々が答えたように彼に答えた。

8:9 それでギデオンはまたベヌエルの人々に言った。「私が無事に帰って来たら、このやぐらをたたきこわしてやる。」

エフライム人はイスラエルの部族ですから、ギデオンの味方ではありますが、彼らはクレームをつけに来ました。ギデオンたちが三百人の勇士で戦い、勝敗が決した後に参戦したのがエフライムでした。彼らは戦利品など勝者の利益が欲しかったのです。

そのような有様は現代でも考えられることです。自分は責任やリスクを負わないように、ことの成り行きを見守り、先が見えたところで参加して自論や権利を主張するといった行動です。

それに対してギデオンは知恵を持って対処しています。「あなたがたの方がすばらしいことをしてくれた。よりよい結果を得た。」と言って、相手の心を「和ら」げた(3)のです。

これが主の戦いであること、主の力で与えられた勝利であること、これからともに歩むべき同胞であることなどを思い、ギデオンは聖霊様から知恵と忍耐をいただいたのでしょう。

一方スコテとベヌエルの人々に対しては、ギデオンは報復を誓っています。彼らはイスラエルの部族であるのにも関わらず、まだギデオンたちの勝利を疑っており、リスクを犯さないで自己中心だったからです。ギデオンは感情で言ったのではなく、まず優先課題であるミデヤン人問題を解決し、その後で対処しようとしています。

私たちには感情よりも優先させるべきことがありますし、また感情よりも大切な主の勝利というものがあるのです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

